

造影剤を用いる CT検査または尿路造影 を受けられる方へ

今回予定されているCT検査あるいは尿路造影は、「造影剤」という薬剤を注射して行います。

造影剤を用いることにより、病気の状態をより正確に明らかにし、今後の治療に役立てることができます。

造影剤は、腎機能が正常であれば注射後6時間で約90%が腎臓から尿として排泄され、やがてすべてが体外に排出されます。腎・尿路の検査では、造影剤の排泄されるタイミングをねらって5～6枚のX線写真を撮影します。

また、静脈内に注入された造影剤は、血管を介して全身の臓器に分布します。したがって適切なタイミングでCTを撮影すると、血管の状態、臓器の血流状態、および病変での造影剤の分布がわかり、画像診断上、重要な情報となることがあります。

CT検査は造影剤を使用しなくても行えますが、造影剤を用いずに撮影した場合には異常を見落とす場合があります。

◆ 副作用の種類や発生頻度

造影剤は比較的安全な薬ですが、アレルギー反応に似た副作用が出現することがあります。

◎軽い副作用

はきけ、嘔吐、じんましん、皮膚のかゆみなど(100～200人に1人)。多くは自然によくなるもので心配はありませんが、必要に応じて抗アレルギー薬を投与する場合があります。

◎重い副作用

血圧低下、息苦しさ、意識消失(1万～2万人に1人)。点滴、昇圧剤、ステロイド剤、抗アレルギー薬などによる治療が必要です。極めてまれ(10万～20万人に1人)ですが様々な処置を行っても病状・体質によっては死亡に至った例もあります。

◎遅発性の副作用

まれに、検査約数時間以降に発疹などの皮膚症状、血圧低下などが出る場合があります。多くは軽いもので、自然に治ります。症状の強い方は、外来を受診してください。

残念ながら、こうした副作用が発生するか否かを事前に知る方法はありません。また、前回の検査の際には異常がなくても、副作用が出る場合があります。

喘息などのアレルギー体質の方、造影剤の副作用を経験した方、心臓病、腎臓病、甲状腺機能亢進症の方、妊娠・授乳中の方については造影剤の使用について慎重に検討いたしますので、必ず担当医にお知らせください。

(裏面につづく)

◆ **造影剤の注射によって**

- ① からだが熱くなることがありますが、血管に対する造影剤の刺激による正常な反応で心配ありません。
- ② 勢いよく造影剤を注入するために、血管外に造影剤がもれることがあります。この場合には、注射部位がはれて痛みを伴うこともあります。基本的には、時間がたてば吸収されますので心配ありません。もれた量が多い場合には、別の処置が必要となることもあります。まれです。

◆ **検査前の生活について**

脱水は造影剤の副作用を強めます。検査前には十分に水分をとっておいてください。なお、水分を制限されている方は主治医にご相談ください。

特に指示のない場合は、通常通りに食事を摂っていただいて構いません。

服用中のお薬は、特に指示のない限り通常通り服用してください。

◆ **検査中のお願い**

検査中は検査担当者とマイクを通じていつでも会話できます。

気分が悪くなった場合は、検査中であっても必ずお知らせください。

◆ **検査終了後は**

食事は普通にお摂りいただき、普段通りの生活を送ってください。

造影剤は尿として排泄されます。排泄を促進させるため、水分を多めにお摂り下さい。なお、水分を制限されている方はお知らせください。

当院では万一の副作用に対して、万全の体制を整えて検査を行っています。もし異常を感じたら、ためらわずにすぐにお申し出ください。

わからないことがありましたら、主治医または放射線科担当者に遠慮なくご質問ください。

医療法人豊田会 刈谷豊田総合病院
放射線科 直通TEL 0566-25-2982